

(様式2-2) (用紙寸法は、日本工業規格A列4とする。)

(※本様式は、別紙を添付することも可とする。別紙を添付する場合は、A4サイズで作成すること。)

事業計画書

1. 業務の委託期間

契約締結日から令和3年3月31日まで

2. 実施体制の構成

教育委員会、学校関係者、事業者等による実証研究実施体制等について記載すること。

※ 記述欄が不足する場合は適宜追加すること。

(1) 教育委員会・実証校関係者

<連絡先> (電話番号)

(E-mail)

担当者氏名	所属・役職等	具体的な役割 (連絡担当者を明記すること)

(2) 先端技術を提供・開発する事業者

【事業者名】

<連絡先> (電話番号)

(E-mail)

担当者氏名	所属・役職等	具体的な役割 (連絡担当者を明記すること)

(3) 高等教育機関等の有識者

<連絡先> (電話番号)

(E-mail)

担当者氏名	所属・役職 等	具体的な役割 (連絡担当者を明記すること)

(4) 実証研究委員会構成員

<連絡先> (電話番号)

(E-mail)

担当者氏名	所属・役職 等	具体的な役割 (連絡担当者を明記すること)

(5) 類似事業・施策等の実績

※ 記述欄が不足する場合は適宜追加すること。

① 教育委員会、実証校等

教育委員会、実証校名【●●●●】

事業の委託元 (主催者)	期間・ 完了年度	事業名・内容	事業結果	概要が分かる URL 等
		事業名： 内容：		
		事業名： 内容：		

② 先端技術を提供・開発する事業者

事業者名【●●●●】

事業の委託元 (主催者)	期間・ 完了年度	事業名・内容	事業結果	概要が分かる URL 等
		事業名： 内容：		
		事業名： 内容：		

③ 高等教育機関等の有識者

氏名	研究分野	関連する研究業績	概要が分かる URL 等

(6) 実施体制図

① 事業推進体制

教育委員会、実証校、事業者、有識者、実証研究委員会等の連携体制が分かる図を作成すること。

関係機関と目的意識を共有し、連携を取りながら適切に業務を遂行するための工夫について記載して下さい。

② 情報セキュリティ体制

本実証においてセキュリティ面で留意すべき事項

本実証の実施に当たって構成する情報セキュリティに関する体制が分かる図を記載すること。

※情報セキュリティに関する組織体制、報告手順等のほか、制度整備、職員向け研修等を行う予定がある場合には、併せて記載すること。

③個人情報保護

実証研究の実施上、想定される個人情報保護に関する内容・体制等について具体的に記載すること。

対応が必要と想定される内容

対応の基本方針

個人情報保護に関する対応体制が分かる図を記載すること。

(7) 実証校の概要及び ICT 環境整備状況

① 実証校等の規模と校種

	項目	内容
1	校種	小学校
	学校名 (ふりがな)	〇〇市立〇〇小学校 (〇〇)
	所在地	〇〇県〇〇市〇〇町X-X-X
	全校児童生徒数	〇〇人
	実証対象学年の児童生徒数とクラス数	4 学年 : 〇人 (X X クラス) 5 学年 : 〇人 (X X クラス) 6 学年 : 〇人 (X X クラス)
	その他	特筆すべき事項があれば記入すること
2	校種	中学校
	学校名 (ふりがな)	〇〇市立〇〇中学校 (〇〇)
	所在地	〇〇県〇〇市〇〇町X-X-X
	全校児童生徒数	〇〇人
	実証対象学年の児童生徒数とクラス数	1 学年 : 〇人 (X X クラス) 2 学年 : 〇人 (X X クラス)
	その他	特筆すべき事項があれば記入すること
3	校種	高等学校
	学校名 (ふりがな)	〇〇県立〇〇高等学校 (〇〇)
	所在地	〇〇県〇〇市〇〇町X-X-X
	全校児童生徒数	〇〇人
	実証対象学年の児童生徒数とクラス数	1 学年 : 〇人 (X X クラス) 2 学年 : 〇人 (X X クラス)
	その他	特筆すべき事項があれば記入すること
4	校種	特別支援学校
	学校名 (ふりがな)	〇〇県立〇〇特別支援学校 (〇〇)
	所在地	〇〇県〇〇市〇〇町X-X-X
	全校児童生徒数	〇〇人
	実証対象学年の児童生徒数とクラス数	〇学年 : 〇人 (X X クラス) 〇学年 : 〇人 (X X クラス)
	その他	特筆すべき事項があれば記入すること

※ 実証校の校種 (小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校)、学校名、所在地、全校児童生徒数、実証対象学年毎の児童生徒数とクラス数について記載すること。なお、記載情報については、申請時のものとする。

※ 記述欄が不足する場合は適宜追加すること。

② 実証校における環境整備状況（ICT機器等）

	学校名	項目		現在の配備状況等
1	〇〇市立 〇〇小学校	C 児童生徒用 P	PC機種名（OS）	〇〇（〇〇）
			配備状況（台数）と配備率	〇台、〇%
		C 教員用 P	PC機種名（OS）	〇〇（〇〇）
			配備状況（台数）と配備率	〇台、〇%
		境 ツ実 ト証 ワ学 ー級 ーの ク環 のネ 環に Iそ Cに T関 環係 境す る証	回線の種類	光ファイバー
			有線 LAN の有無、速度（実測値）	〇〇〇Mbit/sec
			無線 LAN の有無、速度（実測値）	〇〇〇〇・〇〇〇Mbit/sec ※40 台同時通信対応
		I C T 環 境	その他、実証 に関する	
			※必要に応じて行を追加して下さい。	
2	〇〇市立 〇〇小学校	C 児童生徒用 P	PC機種名（OS）	〇〇（〇〇）
			配備状況（台数）と配備率	〇台、〇%
		C 教員用 P	PC機種名（OS）	〇〇（〇〇）
			配備状況（台数）と配備率	〇台、〇%
		境 ツ実 ト証 ワ学 ー級 ーの ク環 のネ 環に Iそ Cに T関 環係 境す る証	回線の種類	光ファイバー
			有線 LAN の有無、速度（実測値）	〇〇〇Mbit/sec
			無線 LAN の有無、速度（実測値）	〇〇〇〇・〇〇〇Mbit/sec ※40 台同時通信対応
		I C T 環 境	その他、実証 に関する	
			※必要に応じて行を追加して下さい。	

- ※ 申請時の数値を記載すること。
- ※ 各項目について、複数機種ある場合は、それぞれの機種ごとに台数を記載すること。
- ※ 配備率については、以下の要領で記載すること。

$$\text{配備率} = \frac{\text{配備台数}}{\text{実証の対象となる児童生徒数（又は教員数）}} \times 100$$
- ※ 記述欄が不足する場合は適宜追加すること。

3. 実証内容

(1) 取組全体の構想

学校全体においてどの場面にどのような先端技術を導入・利活用するのか、包括的な取組全体の概要を記載すること。

※ 記述欄が不足する場合は適宜追加すること。

①テーマ	<input type="checkbox"/> ①AI・ビックデータ（センシングを含む） <input type="checkbox"/> ②AR・VR等、その他のソリューションの活用 ※該当するテーマに○をつけるとともに、取組内容全体を包括する言葉で簡潔に表現すること		
②取組全体の概要			
③背景や実態、目的	※本事業に取り組む背景や実態、動機、目的について記載すること。		
④先端技術をフル活用した将来の学校像	※本実証で検証する先端技術を導入・利活用した将来の学校像を、新時代の学びを支える先端技術活用推進方策（最終まとめ）（文部科学省令和元年6月25日）のP7,8を参考に記載すること。その際、記載内容が⑥「個別の取組概要A・B・C…」のどれに該当するのかが分かるようにすること。		
⑤実証内容の価値	※取組全体について、資質・能力を育成する上での価値や全国的なニーズ、先進性や特徴等について記載すること。		
⑥個別の取組概要	活用場面	カテゴリー	導入・利活用する先端技術 (名称・機能)
A			
B			
C			
D			
E			

※⑥については、次頁の記載例を参考に④将来の学校像を関連付けて個別の取組概要を簡潔にすること。

※カテゴリー：【授業改善支援、学習支援、生活支援、校務支援、政策改善、教員研修支援】から選択して記載すること。上記に当てはまらない場合は、適切な名称を記載す

ること。

【参考】⑥個別の取組概要の記載例

(例) ※新時代の学びを支える先端技術活用推進方策（最終まとめ）（文部科学省令和元年6月25日）のP8を例とした場合

①テーマ	先端技術を活用した関係機関（学校—家庭—教育委員会）間の情報共有機能の向上		
④先端技術を活用した将来の学校像	②子供の視点 【欠席した日】 今日は熱が出て欠席したけど、手元に授業の動画と配布資料、課題などが送られてきた。授業中の友人の発言など、授業でどんなやり取りがされていたのかが分かるのは嬉しい。－（A）		
	③保護者の視点 スマートフォンを見ると、学校からの連絡事項として子供の学校の状況はもちろん、教師が気になる行動等を音声入力で記録したデータ等がリアルタイムで見ることができて子供の様子が臨場感をもってよく分かる。以前は連絡帳に逐一記載していた担任への連絡や書類の提出等も非常に簡単にできるようになった。－（B）		
	④教育委員会の視点 学校ごとに集約されたデータを教育委員会も参照することができるため、学校にわざわざ調査依頼をする必要もなくなり、双方とも便利になった。－（C）また、各教師に対して、受け持つ子供の状況を踏まえた研修コンテンツをレコメンドする機能や、わざわざ研修所に出向くことなく手元のデバイスで必要な情報を入手したり、研修を受けたりすることができる機能が好評だ。－（D）		
⑥個別の取組概要	活用場面	カテゴリー	導入・利活用する先端技術（名称・機能）
A	欠席時の家庭学習	授業支援	●●・アーカイブシステム
B	保護者との情報共有	校務支援	●●・情報共有ツール
C	教育委員会との情報共有	校務支援	●●・情報共有ツール
D	教師に応じた研修支援	教員研修支援	●●・教員アシストツール

なお、上記の例は複数カテゴリーにまたがる構想であるが、下記のように単一カテゴリーでの実証も考えられる。

(例) 授業改善支援を対象とし、授業前後の過程で構想した場合

	活用場面	カテゴリー	活用する先端技術（名称・機能）
A	児童生徒の状況把握（学習の到達状況、生活上の課題等）	授業改善支援	●●・ポートフォリオ
B	教材、指導案等の準備	授業改善支援	●●・教材等共有ツール
C	前時までの振り返り、本時のめあての確認	授業改善支援	●●・アンケート機能
D	板書・教材の提示	授業改善支援	●●・デジタル教材 ●●・遠隔教育システム ●●・協働学習支援ツール
E	机間指導、個に応じた指導、協働学習	授業改善支援	●●・協働学習支援ツール ●●・SNS
F	振り返り、まとめ	授業改善支援	●●・アンケート機能 ●●・SNS
G	事後評価、宿題の提示	授業改善支援	●●・ポートフォリオ ●●・AIを活用したドリル

(2) 取組全体の構想図

(1) において記載した取組全体の構想を図で示すこと。

※別途、別紙（PowerPoint 等を用いて1枚）を作成し、事業計画書とともに提出すること。

(3) 個別の取組

3 (1) ⑥で記載した取組毎にその内容を記載すること。

【A】

取組テーマ	※取組内容を簡潔に表現すること
活用場面	
カテゴリー	
対象	※対象となる学校、学年、人数等を記載すること
背景や実態、目的	※背景や実態、動機、目的について記載すること。
活用する先端技術の名称	
活用する先端技術の機能概要	※取得するデータ・分析方法についても記載すること。
取組内容	※導入する先端技術をどのように活用し、どのような教育の質の向上を目指すのかについて具体的に記載すること。
先端技術の活用場面、頻度等	※具体的な活用場面、頻度、タイミング等を記載すること。その際、発達段階に応じた最適な活用となるよう留意すること。
実証内容の価値	※個別の取組について、資質・能力を育成する上での価値や全国的なニーズ、先進性や特徴等について記載すること。

【B】

取組テーマ	※取組内容を簡潔に表現すること
活用場面	
カテゴリー	
対象	※対象となる学校、学年、人数等を記載すること
背景や実態、目的	※背景や実態、動機、目的について記載すること。
活用する先端技術の名称	
活用する先端技術の機能概要	※取得するデータ・分析方法についても記載すること。
取組内容	※導入する先端技術をどのように活用し、どのような教育の質の向上を目指すのかについて具体的に記載すること。
先端技術の活用場面、頻度等	※具体的な活用場面、頻度、タイミング等を記載すること。その際、発達段階に応じた最適な活用となるよう留意すること。
実証内容の価値	※個別の取組について、資質・能力を育成する上での価値や全国的なニーズ、先進性や特徴等について記載すること。

※ 記述欄が不足する場合は適宜追加すること。

(4) 活用する先端技術

※本実証に関連するもののみ記載して下さい。

① 実証校において現時点で既に活用している先端技術

名称 (サービス名)	「●●●」			
機能	※実証に関わる機能について記載して下さい。			
提供事業者	■■■社			
導入実証校	〇〇小学校			
導入時期	令和〇年〇月～			
取得・活用する データ ※データを利用 しないもの については記載 の必要はありませ ん。	データ名	データ内容	取得方法	取得頻度、取 得範囲等

② 本事業において新たに導入する先端技術

名称 (サービス名)	「●●●」			
機能	※実証に関わる機能について記載して下さい。			
提供事業者	■■■社			
導入実証校	〇〇小学校			
導入時期	令和〇年〇月～			
取得・活用する データ ※データを利用 しないもの については記載 の必要はありませ ん。	データ名	データ内容	取得方法	取得頻度、取 得範囲等

③ 本事業において新たに開発する先端技術

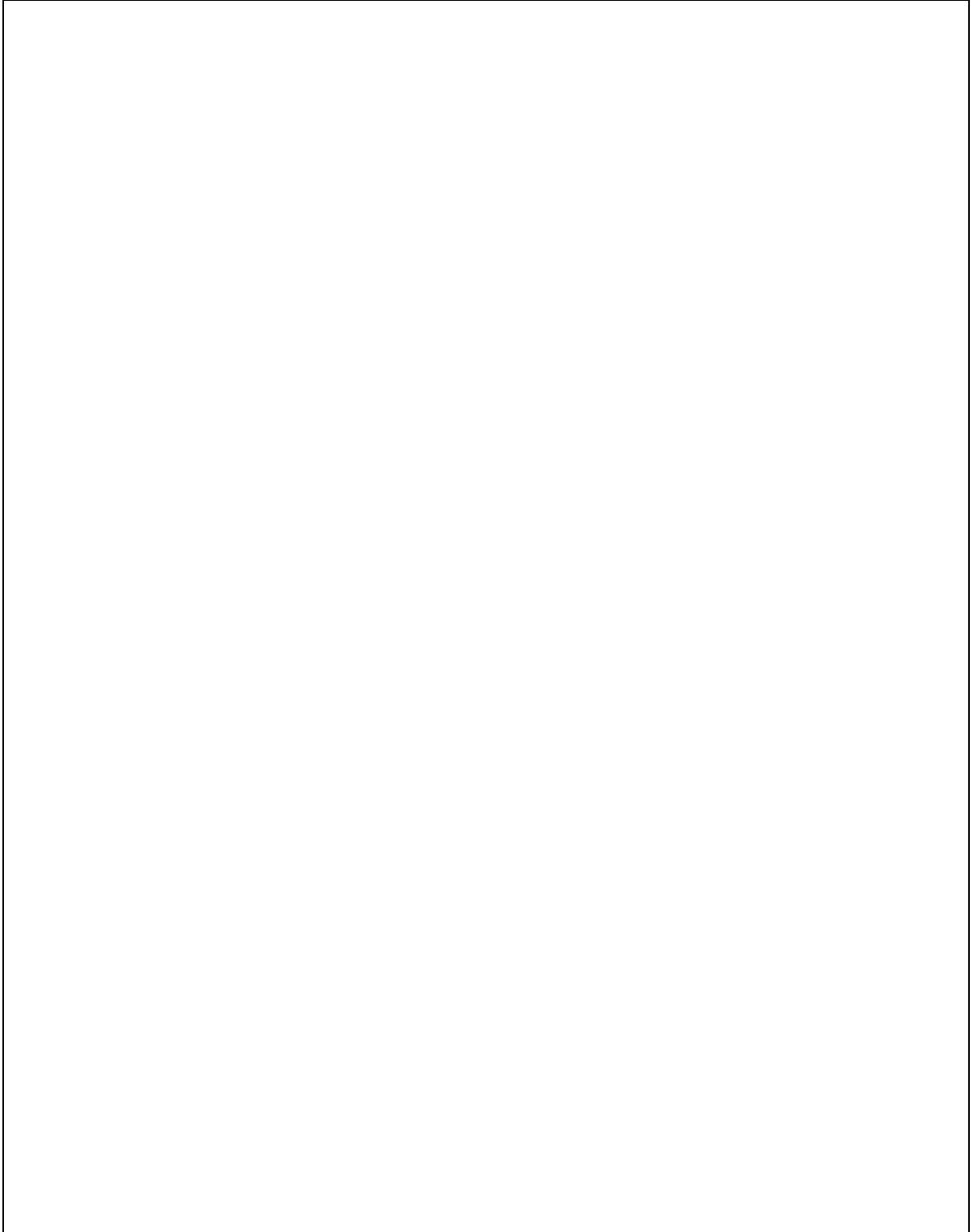
名称 (サービス名)	※仮称でかまいません			
機能				
提供事業者	※予定でかまいません			
導入実証校	〇〇小学校			
導入時期	令和〇年〇月～			
取得・活用する データ ※データを利活用しないものについては記載の必要はありません。	データ名	データ内容	取得方法	取得頻度、取得範囲等

※ 記述欄が不足する場合は適宜追加すること。

(5) システム構成図

本実証において構築するシステム、ネットワーク、ICT機器の全容について図示すること。記載に当たっては、機能に係る各データの流れ、セキュリティ確保策とシステム全体との関係性が分かるよう、特に留意すること。

また、記載に当たっては、①本実証において追加的に整備するもの、②本実証とは別に自治体単費等により追加整備するもの、③本実証以前に整備された既存のものとの別が分かるように色分けなどして記載すること。



※システム構成一覧

システム構成図において記載したものを、箇条書きで記載すること。

	名 称	整備場所	数 量
①本実証において追加的に整備するもの			
②本実証とは別に自治体単費等により追加整備するもの			
③本実証以前に整備された既存のもの			

※記述欄が不足する場合は適宜追加すること。

4. 実証研究実施上の工夫

(1) 負担軽減の工夫

先端技術の活用において、日々のデータを自動的に蓄積するなど、リアルタイムに、かつ教員の負担感なく行うことができるようにするための工夫を記載すること。

(2) 先端技術の活用、教員支援のための工夫

(1) で示した先端技術について、活用頻度を高めたり、支援の質を向上させたりするための工夫・機能について記載すること。

※記述欄が不足する場合は適宜追加すること。

(3) 研修について

先端技術の活用にかかる研修の取組について記載すること。

	実施主体	研修対象	内容	実施時期、頻度
(1) 本事業の趣旨伝達及び活用促進に関する研修				
(2) 先端技術の活用等に関する研修				
(3) その他				

※記述欄が不足する場合は適宜追加すること。

(4) 先端技術の改善に向けた工夫

先端技術の改善に向けて、どのように意見を聴取しどのように改善に反映させるかその課程を具体的に記載すること。

	実施主体	対象	内容	実施時期、頻度
導入前				
導入後				

5. 取組の効果検証について

先端技術の活用による効果を示す指標及び検証方法を具体的に記載すること。

(1) 数的評価

①

指標				
測定対象				
実施時期、 頻度				
検証方法				
期待する 効果				
達成目標	現状値	R2	R3	R4

②

指標				
測定対象				
実施時期、 頻度				
検証方法				
期待する 効果				
達成目標	現状値	R2	R3	R4

※現状値（令和元年度末時点での数値等）が分かっている場合には、「(現状値)」欄に記載すること。分からない場合には「未測定」である旨を明記すること。

※記述欄が不足する場合は適宜追加すること。

(2) 質的評価

①

指標				
測定対象				
実施時期、 頻度				
検証方法				
期待する 効果				
達成目標	現状値	R2	R3	R4

②

指標				
測定対象				
実施時期、 頻度				
検証方法				
期待する 効果				
達成目標	現状値	R2	R3	R4

※現状値（令和元年度末時点での数値等）が分かっている場合には、「(現状値)」欄に記載すること。分からない場合には「未測定」である旨を明記すること。

※記述欄が不足する場合は適宜追加すること。

(3) エビデンスに基づいた分析を行うための工夫

(1)、(2)の検証を行うに当たり、特に行う工夫について記載すること。

--

6. 事業実施スケジュール

事業実施のスケジュールを詳細に記載すること。なお、本事業に係る工程表等を作成している場合は、別紙（任意様式）として添付すること。

(1) これまで（採択まで）の取組

時期	主な取組

(2) 令和2年度 採択以降の計画

※「実証内容の普及を図るための取組」については、域外におけるニーズ調査や域内における成果発表会、シンポジウムにおける成果発表等、取組のうち、普及にかかると記載して下さい。

時期	実証研究についての取組	実証内容の普及を図るための取組
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		

(3) 令和3年度の計画

時期	実証研究についての取組	実証内容の普及を図るための取組

(4) 事業終了後の計画

時期	実証研究についての取組	実証内容の普及を図るための取組